



根本 英二 先生

略歴

1989年 東北大学歯学部卒業
1989年 仙台東邦歯科診療所 インターン
1993年 米国 南カリフォルニア大学 研究員
1997年 東北大学大学院博士課程修了 博士（歯学）
2004年 米国 ワシントン大学 研究員
2006年 東北大学大学院歯学研究科 講師
2011年 東北大学大学院歯学研究科 准教授

資格

日本歯周病学会 歯周病専門医
日本歯科保存学会 歯科保存治療専門医

歯周病の話題：口と全身の病気の危険な関係

東北大学大学院歯学研究科エコロジー歯学講座 歯内歯周治療学分野
根本 英二

人の体の表面には、約100兆個の細菌が住みついています。ヒトの体は約30兆個の細胞からなることを考えると、ヒトの体を構成する細胞の実に約70～90%は細菌ということになります。これらの細菌は常在細菌叢と呼ばれ、常在細菌は病気を引き起こすどころか、病気の原因となる微生物から人間の体を守る役割をします。その代表例は、腸内細菌で言われる“善玉菌”ですが、口腔内にも多くの菌種によって口腔細菌叢が形成されています。うまくコントロールができないと、菌種のバランスが崩れることで歯周病の悪玉菌が増え、歯周病の発症につながります。現在、日本人の成人の約7割が歯周病であるという深刻な状況におかれています（歯科疾患実態調査：2016年）。しかしながら、歯周病であるにもかかわらず、自分がそうだと認識している人は、意外に少ないようです。歯周病とは、歯周病菌により歯ぐきが炎症を起こし、最後には歯が抜け落ちてしまう病気です。歯周病の怖さとは、「歯が抜けてしまう」というお口の中のことにとどまらず、実は全身の病気の発症や悪化の原因の一つであることです。その代表的なものに糖尿病、心臓血管系の病気や高齢者の誤嚥性肺炎が起きやすくなる可能性があることが最近指摘されるようになりました。本日の講演では「歯周病とはどういう病気なのか?」、「全身の病気と歯周病はどのような関係があるのか?」についてお話しします。また、常在細菌叢について理解を深めていただきながら、プラークコントロールすることの大切さを再認識したいと思います。